鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第 171 号　R4. 12.02

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502 鹿児島市薬師町2丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
本校ホームページ：

随想「美を求める心」

国語科　宮脇　健一

鶴丸に赴任してからここまで、多くの人や言葉に出会ってきました。店員さんに丁寧に「ありがとう」とお礼を言う先生に人としての美しさを感じたり、廊下ですれ違うときにきれいな会釈をする生徒に瑞々しく柔らかな優美さを見たり。鶴丸だけでなく、この世の中には美しさが溢れています。美しさに気づくかどうかは、こちら側の心次第ではありますが…。

さて、今回取り上げるのは、鶴丸で出会った言葉の一つです。赴任して一年めでした。当時の大平和男校長先生が全校朝会で語られた言葉が、鮮烈な印象を伴って心に残っています。

「物事は全てニュートラル。価値は自分の心が決める。」

確かにそうだ、ものの見方が変わった瞬間でした。特に自分の力ではどうにもならないことにおいては、物事は全てニュートラルです。友人が発した何気ない一言も、そのときのこちらの気の持ちようで、毒にも薬にも、癒しにも凶器にもなります。今日の授業も、明日の事件も、起こりうる災害だって、物事は全てニュートラル。物事の意味は自分の心が決めるのです。

それなら、自分の力ではどうにもならないことに心を惑わすのはバカげているのではないか、そう思うようになりました。物事がニュートラルなら、こちらがその物事を好転させればいい。好転させられないなら、あっけらかんと流してしまえばいい。ニュートラルということは、どんなふうにそれを扱ってもいいということ。ならば、自分の心の負担にならないように扱えばいい。随分と都合のいい解釈ですが、心が軽くなる救いの言葉であることは確かです。

この言葉との出会いから何年も経った日、偶然、週刊ＡＥＲＡに連載されていたマンガを目にしました。そのマンガは「あたしンち」。わずか一ページのマンガですが、思わず感嘆の声を漏らした内容でした。タイトルは「親ガチャ」。（ＱＲコードを読み取ってみてください。このマンガをまるまる読むことができます。）

「『親ガチャ』って言葉知ってる?」から始まるこの回は、いつもふざけているお母さんが「お母さんはそもそも自分ガチャに外れてるし」と自嘲しながら、「そもそも人間が偶然の世界になにを求めたってさ、無関係だからね」と言い切ります。最後のお母さんの言葉は圧巻でした。「要はすべての偶然は授かりものだから　出たやつを生かした人が当たりってことなのよ。」

二〇二一年10月の掲載でした。当時流行っていた（親）ガチャという言葉が大嫌いだったのですが、このマンガを読んで溜飲を下げることができました。気持ちを代弁してくれた気がしたからです。（そもそも、日本に生を受けて、かなりの確率で生命の危機に晒されることはないことだけで、「ガチャ当たり」だと思いませんか？　国によっては16歳でライフルを担いで、相手がどんな存在かも知らないうちに人を撃つことを余儀なくされている若者もいるのに、安穏と教科書を眺めていられる幸せ！　なのに、さらなる「ガチャ当たり」を求めるさもしさよ！　……興奮のあまり少し話が横に逸れてしまいました…。）「偶然に何を求めても無関係」「出たものを生かした人が当たり」――「ああだったらよかったのに」「せめてこうなれば」と考えても仕方のない偶然に世の中は満ちていて、偶然に心を悩ませることは、いいガチャが出ることを期待して幾らもお金をつぎ込んだ結果、いいガチャには出会えず、失望だけが募る現代人を軽くディスっています。自分の力ではどうしようもない偶然をめぐって、いたずらに心を疲弊させる現代人を。

「物事は全てニュートラル」「出たものを生かした人が当たり」――これらの言葉は、現状に満足せよ、とか、足るを知る、とかいうことを伝えている訳ではないと思われます。全ては心の持ちようであり、目の前の状況は自分の味方にできる、と示唆しているのでしょう。そう思ったとき、周りのものの多くは、自らを優しく包むものに見えてくるはずです。硬質でとげとげしく感じられた物理の教科書も（失礼！）、何を語りかけているのかはっきりしない難解な評論文も、柔らかく優しい言葉で話しかけてくるはずです。

孔子の述べる「中庸」ですね。ちなみにこの「中庸」、孔子も高度の徳目と考えていたようで、修行者だってなかなか到達できない境地だそうで。そんな境地でも、「中庸」の概念を手にすれば、少し生きやすくなるのではないかと、期待して過ごしています。いろんなものの美しさが目に止まり、世の中が美しく見えるように。

1・2年生　後期集団読書

11月16日(水)の7限目に、1・2年生を対象として集団読書が行われました。前期の集団読書の書籍については国語科の先生方が各学年別に本を選んでいますが、後期は例年、1・2年生共通で、また国語科以外の教科の先生方が持ち回りで、本を選んでいます。今回の書籍は、数学科の先生方により選ばれた村田沙耶香 著『コンビニ人間』(文春文庫)。二〇一六年に第155回芥川賞を受賞、全世界での累計発行部数100万部を突破し、世界30か国で翻訳されている作品です。今回は事前に提出された感想文の中から、1・2年生各1人ずつの作文を紹介します。

「気持ち悪いの裏側」　18Ｒ　下入佐　菜那

気持ち悪い。この本を読んだ感想だ。まずは古倉の行動が気持ち悪い。幼少期には死んだ小鳥を食べようとし、成人後も泣く赤子をナイフで黙らせようとする非人間的な発想をする。そして、古倉のような「普通」じゃない人間を見下す「普通」の人間も気持ち悪い。また、その「普通」の人間に共感してしまう自分も気持ち悪い。最大に気持ち悪いと感じたのは、古倉の立場がはっきりしない事だ。題名である「コンビニ人間」が無機質な人間、つまり感情のない人間を表していると解釈すると、古倉はコンビニ店員の自分と、コンビニ人間の自分の二つの自分を持つことになる。コンビニ人間の古倉は周りと違う発想を持つ、いかにも「普通じゃない」人間だ。逆にコンビニ店員の古倉はコンビニで働く「普通」の人間のように見える。しかし、妹が言うように古倉はコンビニ店員になった後さらに狂ったようにも見える。白いビルのみが立ち並ぶ、無機質で不気味な光景をコンビニ店員になる前は気味悪がっていたが、コンビニ店員になった後は心地いいと言っているのが印象的だ。また、独身のコンビニ店員であること自体、白羽の言葉を借りるなら「負け組」、普通ではないという見方もできるだろう。このように古倉は「普通」側かそうでないのか分からない。物語の最後は「普通」側である妹にも「普通」側ではない白羽にも受け入れられていないように、どちら側でもないのかもしれない。そもそも外形の分かりにくい「普通」に区別をつけること自体間違っているのかもしれない。強いて言うなら「中間」という第三者の立場だが、その「中間」が微妙で気持ち悪い。しかし、はっきりしないというのは見方を変えると、如何様にも解釈できるということだ。実際、この感想文を書くにあたって何度も読み直し、いろいろな解釈を考えたがどれが正解かは分からない。というか正解はないのではないか。それこそが作者の意図なのかもしれない。だからこの作品は、私を魅了するのだ。

「多様化社会の中で」　23Ｒ　堀之内　俊成

私たちは今、人生の岐路に立っている。一年後に控えた大学入試はこれからの人生を決めてしまうものと言っても全く過言ではない。そのようなものが自分のすぐ近くに迫っていると思うと、恐怖しか抱くことができない。高校の普通科に進学した私たちは、言わば「そこそこの大学」に行くことが求められ、そのまま「有名な会社」に入っていくのだろうと思われている。それが私たちや私たちの周囲にとっての「普通」であって、特に抗おうという気持ちもない。もちろん、前述したことは簡単には達成などできないのであって、自分がそうなれるとも思っていない。それでも、どこかの大学に行って、どこかの会社に就職するんだろうな、というビジョンはある。この「コンビニ人間」に出てくる古倉は高校を卒業してから36歳になるまでの18年間ひたすらコンビニバイトをしている変わった女性だ。初めて読んだ時、古倉の同僚のコンビニ店員のように、普通じゃない、異常だなと思ってしまった。しかし、誰が「普通」「普通じゃない」の線引きをしたのだろう。自分の中にいつからか当たり前のようにある感覚だが、誰が決めたんだろう、誰が教えたんだろう。そんな疑問が次々と私の中に浮かんだ。この本はまさしく「普通」とは何かを問いかける作品だと思う。物語の中で白羽は言っていた。「普通の人間っていうのはね、普通じゃない人間を裁判するのが趣味なんですよ」と。私にはこの言葉が現代社会を生きる私たちに警鐘を鳴らしているものに思えた。多様化社会と様々な場所で言われているが、果たして本当に人々はそれを実現しようとしているのか。この世の全ての人を愛するべきだ、とはもちろん思わない。しかし、自分の価値観と違うものをもっている人の考えにまず耳を貸すべきではないだろうか。このことを私も胸に深く刻みたい。

桜島路を力の限り駆け抜けて ～第70回ロードレース大会～

11月8日(火)、桜島の溶岩グラウンドにおいて、ロードレース大会が開催されました。当日はやや汗ばむほどの晴天に恵まれ、1・2年生が日頃の体育の授業等での練習の成果を発揮するべく、秋晴れのランニングコースをそれぞれのペースで駆け抜けました。

12月の行事予定

月	日	曜	行事等	校時	時間割変更等	学食
12	1	木	中間考査・卒業考査(3日目)	考査		×
12	2	金	中間考査・卒業考査(4日目) 週番引継会	考査		○
12	3	土				×
12	4	日				×
12	5	月	全校朝会 保健講話	5分遅 ⑤⑥45分		○
12	6	火			金曜授業	○
12	7	水				○
12	8	木	SC来校(大島先生 13:30～16:30)			○
12	9	金	1・2年クラスマッチ 週番引継会		火曜授業	○
12	10	土				×
12	11	日				×
12	12	月	学校安全の日	45分		○
12	13	火	SC来校(児玉先生 13:30～17:30) 緑化コンクール			○
12	14	水				○
12	15	木				○
12	16	金	週番引継会			○
12	17	土	悠学講座⑥			×
12	18	日				×
12	19	月	学年朝会	5分遅		○
12	20	火		45分		○
12	21	水				○
12	22	木				○
12	23	金	大掃除　共通テスト激励会　週番引継会 1・2年実力考査時間割発表	40分	金①カット	○
12	24	土	3年共通テストプレ①			×
12	25	日	3年共通テストプレ①			×
12	26	月	冬季悠学講座			○
12	27	火	冬季悠学講座 SC来校(児玉先生 13:30～17:30)			○
12	28	水	冬季悠学講座			○
12	29	木	3年共通テストプレ②			×
12	30	金	3年共通テストプレ②			×
12	31	土				×

↑発行時の予定です。
変更に注意してください。